

# ティーチング・ポートフォリオ

名前：[ブシャーシルベ]

学歴：[文学士：東アジア学専攻、教育学士：第二言語としての英語教授法専攻]

[修士：応用言語学]

現在の職位：[講師]

所属：[家政部家政学科健康栄養学専攻]

## 1. 教育の責任

授業の目的は、学生が実践的な外国語運用能力を身につけることである。単なる知識の詰め込みではなく、実際のコミュニケーションの場面で活用できるスキルを養うことに重点を置いている。また、言語学習を通じて異文化理解を深め、広い視野を持った社会人を育成することを目指している。授業では、学生の自主性を尊重し、自ら考え、発言し、実際に使いながら学ぶ環境を整える。言語スキルの向上だけでなく、論理的思考力や問題解決能力を養うことも重要視し、日常生活や将来の職業に直結する実践的な学びを提供することを責務とする。

## 担当科目

| 科目名     | 対象学科・専攻     | 学期 | 授業形態 | 単位数 |
|---------|-------------|----|------|-----|
| 英語Ⅰ（大）  | 服1年、健1年、美1年 | 前期 | 演習   | 1単位 |
| 英語Ⅱ（大）  | 服1年、健1年、美4年 | 後期 | 演習   | 1単位 |
| 英会話Ⅰ（大） | 健1年         | 前期 | 演習   | 1単位 |
| 仏語Ⅰ（大）  | 服4年、健1年、美1年 | 前期 | 演習   | 1単位 |
| 仏語Ⅱ（大）  | 服4年、健4年、美1年 | 後期 | 演習   | 1単位 |
| 英語Ⅰ（短）  | 子1年         | 前期 | 演習   | 1単位 |
| 英語Ⅱ（短）  | 子1年         | 後期 | 演習   | 1単位 |
| 英語Ⅰ（短）  | 食1年         | 後期 | 演習   | 1単位 |
| 英語Ⅱ（短）  | 食2年         | 前期 | 演習   | 1単位 |

## 2. 教育の理念

外国語学習は、単なる知識の習得ではなく、実際のコミュニケーション能力を高めることを目的とする。また、異なる価値観を理解し、多様な文化を受け入れる姿勢を養うことも重要である。単に文法や単語を学ぶのではなく、言語を実際に使うことで、異文化間の理解を深め、グローバル社会で活躍できる人材の育成を目指す。授業では、学生が主体的に学び、自ら考え、発信できる環境を提供する。それにより、柔軟な思考力を育み、学生同士の交流を通じて積極的に学ぶ姿勢を促す。

## 3. 教育の方法

授業では、アクティブラーニングを積極的に取り入れ、学生が能動的に学ぶ環境を整えている。主な手法として、以下を実施している。

### (1) グループディスカッション・ペアワーク

- 多くの学生は中学・高校で主に文法を学び、読解や作文に多くの時間を費やしてきたため、授業では他の重要なスキル、すなわちリスニングとスピーキングの向上を重視している。
- 学生同士が意見を交換しながら学ぶことで、理解を深め、実践的な言語運用能力を身につける。
- 実際のコミュニケーションの場面を想定し、言語を使う経験を増やすことで、応用力を高める。

### (2) デジタル教材の活用

- 授業はペーパーレスで進め、オンラインプラットフォームを利用して、学生がいつでも学習できる環境を整える。
- 学期中、学生は授業時間外において、自身のレベルに応じた言語アプリを使用し、15時間の自主学習を行うことが求められる。これにより、言語運用能力の向上を図る。

### (3) 評価の多様化

- Google クイズを活用し、不正防止システムを導入することで、公平かつ正確な評価を行う。
- テストの結果だけでなく、授業中の活動や発言の頻度も評価に反映することで、実践的なスキルの向上を促す。

## 4. 教育の成果

### (1) 学生の授業評価

令和6年度に実施した学生による授業評価の結果を以下に示す。すべての科目で5点満点で4.33以上とおおむね高い評価を得ている。また、「たくさん英語を学べてよかった。」「分かりやすい授業だった。」「5分休憩があるのが良かった。」「

新しい単語を覚える時は練習時間があるため、とても良い。」「アプリなど、覚えやすい工夫がされていた。」「席が指定されていて不安だったけど他の学科の子と友達になれてよかった。」「普段使うものや、知ってる英語が多く楽しくできた。」「英語がめっちゃ聞き取りやすい。」「楽しく授業することができました。」「

先生がわかりやすく教えて下さり、楽しく学べました。アプリの使用もよかったと思います。」「などのコメントが寄せられた。

| 科目名     | 対象学科・専攻     | 開講時期 | 総合評価      |
|---------|-------------|------|-----------|
| 英語Ⅰ（大）  | 服1年、健1年、美1年 | 前期   | 4.68/5.00 |
| 英語Ⅱ（大）  | 服1年、健1年、美4年 | 後期   | 4.72/5.00 |
| 英会話Ⅰ（大） | 健1年         | 前期   | 4.62/5.00 |
| 仏語Ⅰ（大）  | 服4年、健1年、美1年 | 前期   | 4.48/5.00 |
| 仏語Ⅱ（大）  | 服4年、健4年、美1年 | 後期   | 5.00/5.00 |
| 英語Ⅰ（短）  | 子1年         | 前期   | 4.43/5.00 |
| 英語Ⅱ（短）  | 子1年         | 後期   | 4.71/5.00 |
| 英語Ⅰ（短）  | 食1年         | 後期   | 4.82/5.00 |
| 英語Ⅱ（短）  | 食2年         | 前期   | 4.33/5.00 |

### (2) 学習成果の向上

ITツールの活用により、学生の理解度や進捗をリアルタイムで把握し、適切な指導を行うことが可能になった。オンラインプラットフォームを活用することで、学生は個々のレベルに応じた学習を進めることができ、苦手な分野の補強や得意なスキルの向上が効率的に行えるようになった。授業ではデジタル教材を用いた課題やクイズを取り入れ、従来の紙ベースの学習と比較して、より柔軟で多様な学習機会を提供している。大人数のクラスでも、デジタルツールを活用することで、一方通行の授業ではなく、双方向の学習環境を実現した。特にグループワークやペアワークを強化し、学生同士が協力して学ぶ機会を増やしたことで、実践的な会話力の向上が見られるようになった。評価方法の多様化も進められ、筆記試験に加えて、授業中の発言や活動への積極的な参加も成績に反映されるようにしている。

## 5. 今後の目標

今後は、IT を活用した教育をさらに発展させ、学生の主体的な学びをより一層促進することを目指す。授業の設計を見直し、より実践的で効果的な指導方法を導入することで、学生が社会に出た際に即戦力となるスキルを身につけられるようにする。また、外国語学習を通じて、異文化理解を深め、国際的な場で活躍できる人材を育成するために、授業内容の改善を継続的に行っていく。特に、学生の学習意欲を高め、個々のレベルに応じた柔軟な学習環境を整えることが重要である。そのために、授業外での学習をさらに促進し、学生が自発的に取り組める仕組みを強化する。また、授業中の活動においても、単なる知識の習得にとどまらず、実際のコミュニケーション能力を高める機会を増やし、言語運用能力の向上を目指す。これらの取り組みを通じて、学生が自信を持って外国語を使えるようになることを目標とする。具体的には、以下の取り組みを進める。

### (1) オンライン教材の充実

- 学生が授業外でも自主的に学習できるよう、オンライン教材を充実させる。
- AI を活用した個別学習ツールを導入し、学生の習熟度に応じた最適な学習コンテンツを提供する。
- モバイルアプリの活用を推進し、隙間時間を活用した学習を可能にする。

### (2) 発話機会のさらなる増加

- より多くの実践的な会話練習を取り入れ、学生が自信を持って話せる環境を整える。
- ロールプレイやディベートを導入し、より高度なコミュニケーション能力を養う。
- ネイティブスピーカーとの交流機会を増やし、実践的な言語運用能力を向上させる。

### (3) フィードバックの強化

- 学習成果をより正確に把握し、個々の学生に応じたフィードバックを提供する。
- 定期的な学習評価を行い、個別の課題を明確にすることで、効果的な学習支援を実施する。
- ピアフィードバックの仕組みを導入し、学生同士が互いに学び合う環境を促進する。

これらの取り組みを継続的に行い、より実践的で効果的な外国語教育を実現することを目指す。